

## 第 28 回生活科学系コンソーシアム会議議事録

日時:2019 年 9 月 24 日(火)16:30~18:00

場所:大妻女子大学 B 棟4階 432 被服構成実習室

出席者:(敬省略)

生活科学系コンソーシアム構成学会より 計 11 名

国際服飾学会	佐々井啓
日本衣服学会	阿部栄子
一般社団法人 日本家政学会	綾部園子
日本家庭科教育学会	綿引伴子
日本食品衛生学会	永山敏廣
一般社団法人 日本調理科学会	三宅裕子
服飾文化学会	大網美代子
一般社団法人 日本繊維製品消費科学会	小柴朋子
生活経済学会	上村協子
一般社団法人 日本保育学会	波多野名奈
一般社団法人 日本健康心理学会	遠藤公久

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 7 名

小川宣子、塚原典子、薩本弥生、多屋淑子、重川純子、守隨香、片山倫子

欠席者:構成学会

日本消費者教育学会、日本食生活学会、日本食品科学工学会、日本健康医学会、  
日本健康科学学会

欠席者:日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 9 名

香西みどり、都築和代、工藤由貴子、藤原葉子、倉持清美、永富良一、熊谷日登美、  
宮野道雄、鈴木恵美子

配布資料

資料1. 出席名簿

資料2. 生活科学系コンソーシアム第 12 回総会議事録(案)

資料3. 2019 年度活動計画

資料4. 第 11 回生活科学系博士課程論文発表会について

資料5. 教育へのかかわりに関するアンケート

資料6. 構成学会の会長及び連絡係の氏名および連絡先一覧

## 資料7. 協賛について

### 議題

- (1) 生活科学系コンソーシアム第 27 回会議議事録(案)の承認(守隨委員) 資料 2  
資料のとおり承認された。
- (2) 第 11 回生活科学系博士課程論文発表会について(小川会長、守隨委員) 資料 3、資料 4-1、4-2  
資料 3 をもとに小川会長から、既に案が前回会議で承認されている 2019 年度活動計画の説明がなされた。それを受けて守隨委員より資料 4-1 をもとに博士課程論文発表会の日時、開催場所が説明された。続いて資料 4-2 をもとに、発表申込書の書式にエントリー者の指導教員の承諾を確認する項目を設けることが提案された。書式の末尾に指導教員の承諾の有無を記入する項目を設けることとなった。また小川会長より、各構成学会の学会誌等で発表会開催および発表者募集の広告をしていただけるよう呼びかけられた。守隨委員が 11 月に募集原稿および発表申込書を完成させ、構成学会にメールで送付することとなった。
- (3) 第 8 回シンポジウムについて (小川会長) 資料 5  
小川会長より資料をもとに説明がなされた。構成学会に依頼したアンケート調査は、被服系学会からの回答が多数を占めたので、今回は「衣と健康」をメインテーマとし、各構成学会の視点を発揮できるシンポジウムを行いたい。アンケートに回答があった本日ご出席の日本健康心理学会へも登壇者を出していただくよう依頼された。本日の会議でシンポジウム担当になった多屋委員からも、下記の被服系 4 学会および日本健康心理学会にも加わっていただき、総合的に生活と健康をテーマとする内容を考えてほしいと依頼された。今後は多屋委員が直接、5学会の担当者と審議を行い、具体的な講演内容を決めることとなった。  
登壇者については次のとおり依頼がなされた。  
国際服飾学会－登壇者をだすことを承諾した  
服飾文化学会－登壇者を出すことを検討する  
日本繊維製品消費者学会－連絡係が交代するため、次期担当者に登壇者を出すことの検討を引き継ぐ  
日本健康心理学会－「衣と健康」では登壇者の確保ができないかもしれない。学際的なコミュニケーションを図るという目的を伝え、登壇者を出すことを検討する  
日本衣服学会－登壇者を出すことを承諾された
- (4) 第 13 回生活科学系コンソーシアム総会開催日程について(小川会長)  
小川会長より、次回会議が 2020 年 5 月 12 日(火)、17 時から日本学術会議で行われること、各構成学会の会長および連絡係の 2 名で出席してほしいことが伝えられ、承認

された。

## 報告

(1) 第 24 期日本学術会議健康・生活委員会家政学分科会の報告(小川会長) 資料 7  
第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会より日本学術会議公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティーに関する課題と今後の展望」への共催もしくは後援の依頼をしてほしいと要請を受けた。賛同していただけるか、資料 7 を参考に検討し、回答してほしいと呼びかけられた。なお特定の書式があれば送付してほしいと依頼された。構成学会より「会費は発生するか」と質問が出て、発生しない旨が回答されたが、共催と後援では意味が異なるとの見解も示された。現状は文部科学省の後援であることを踏まえて、小川会長が共催として依頼することとなった。詳細が決まり次第、改めて連絡する。

## (2) その他

### ①「学術の動向」について (小川会長)

小川会長に、日本学術会議が発行している「学術の動向」に本コンソーシアムの構成学協会の動向について投稿してほしいとの依頼があった。これに対し、小川会長が日本家政学会を推薦したところ、承認され、大塚美智子会長にご執筆いただくことになった。日本家政学会は多岐にわたる研究分野を包含しており、研究成果も多い。しかしながらこれらの全体像を日本学術会議が把握しているとは言い難いので、この機会に日本家政学会会長から 70 年間にわたって積み上げてきた家政学分野の研究や今後の方向性について紹介していただきたいと述べられた。

### ②構成学会の 2019 年度行事予定について(阿部委員) 資料 6

前回の会議で 6 月中にと依頼していた行事予定が、ほとんどの学会から期限内に連絡されたことが報告され、お礼が述べられた。ミスまたは変更があれば阿部委員にメールで知らせることとなった。

### ③WG 報告:家政学分科会における提言発信に向けた WG の進捗状況が報告された。

#### ・被服分野 WG (多屋委員)

引き続き、衣料管理士について検討を行う。

#### ・免許外教員 WG (小川会長)

家庭科は実験実習が必要であるため、その能力を有する教員が授業を担当する必要があり、それへの研修も必要であり、日本家政学会などの学会が担えないかとの意見も出ている。シンポジウムの開催も検討している。

#### ・食分野 WG (小川会長)

継続して管理栄養士が健康教育に果たす役割について検討を行う。シンポジウムの開催も検討している。

#### ・生涯学習 WG (重川委員)

前回の議事録に記載されている状況からあまり進捗していないが、変化した点としてのWGメンバーが拡充された。

- ・科研費 WG（小川会長）

引き続きキーワードの検討を行っていく方針である。

- ・住分野 WG（小川会長）

提言案は概ねできており、裏付けのためのシンポジウムを計画している。

- ・児童分野 WG（守隨委員）

家政学における児童学について、日本家政学会でのシンポジウムを検討している。

④12月21日(土)および3月24日(火)に開催予定の会議について（阿部委員）

いずれも当日のお弁当の注文が派生するため、出欠席の連絡を早めにしてほしい旨が呼びかけられた。

次回会議日程:2019年12月21(土) 11:00~12:30

場所:日本女子大学